若者をひきつける「古事記」

戦前の国家主義的な学校教育で、『古事記』は、戦後長く学校教育から遠ざけられていた。奈良時代の歴史書を通して若い世代に漫画や小説や漫画を通して若い世代に語りかけている。「因幡の白兎」など昔話が、小説や漫画を通してとどまらず、天皇の事績を記した部分も自由に解釈される。古事記の何が現代の作家や読者をひきつけるのか。（寺田理恵）

現存する日本最古の歴史書である古事記は、上巻に世界のはじまりと神代、中・下巻に初代・神武天皇から推古天皇までを収録している。

「天皇記までラノベ化なんて…本気なんですか？」。こんなキャッチコピーが帯に躍るのは、古事記をセリフ調のくだけた文体で意訳した小野寺優著『ラノベ古事記』の第2弾だ。

キャラクター化された神武天皇が特別な力を持つ神剣「布都御魂（ふつのみたま）」を神から賜り、仲間を増やしながら国をまとめて「家族みたいな国にしていこうよ。みんなで一緒にっ！」と即位する。

ヒーローが強化アイテムでレベルアップしながら試練を乗り越えるロールプレーイングゲームのようだ。著者はあとがきで「そもそも古事記がものすごく面白いんだって主張したい」と書いている。

ラノベとは、若者向け娯楽小説のジャンル「ライトノベル」を略す。「神様が超すごい」ストーリーで知られる。

刊行された。発売ヒット。DOKAWAによる『ラノベ古事記』を購入しているのはラノベ読者の男女で、男性は30～40代。女性は20～50代と幅広いが、子供用に買う親が含まれる可能性もあるという。

小説や漫画にも

文春文庫から昨年12月に刊行された小説『神と王』は、古事記からインスピレーションを得たという異世界ファンタジー。世界のはじまりが記されているとされる亡国の宝をめぐり、侵略国の王族や謎の青年たちが作とあって注目度は高い。

古事記を題材とする漫画も多い。刀の魂魄を見ることができる高校生が主人公の人気シリーズ「KATANA」の21巻（昨年11月発売）では、主人公が古事記の世界に迷い込む。サブタイトルは「古事記の剣」。いろいろな神剣が登場するいろいろな神話でもあるファンタジーに英雄ファンタジーに古事記を、ストーリーにまく取り込んでいる。

『古事記』を題材にした小説や漫画など

古事記

現存する日本最古の歴史書。天武天皇が稗田阿礼に誦習させた天皇家や豪族の記録を、元明天皇の命で太安万侶（やすまろ）が和銅5（712）年に献上した。上巻は天地開闢（かいびゃく）、中・下巻は神武天皇から推古天